

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教 育 学 ）	氏名	高 田 康 史
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
<p>現代的なリズムのダンス授業の学習指導に関する研究 ーステップ習得学習に着目してー</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	松 尾	千 秋
審査委員	教 授	東 川	安 雄
審査委員	教 授	三 村	真 弓
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、中学校保健体育科における現代的なリズムのダンス授業の学習指導における系統的な内容について追究するため、定型の運動学習、特にステップ習得をもとにした学習（以下、ステップ習得学習）に着目し、その有効性や妥当性について実証的に検討することを目的とするものである。</p> <p>本論文は、序章と終章を含めて、6章で構成されている。</p> <p>序章では、問題の所在、先行研究の検討、研究の目的および課題について述べている。平成20年の中学校学習指導要領改訂に伴い、中学校1・2年生において武道、ダンスを含むすべての領域が男女必修となり、ダンス学習指導全般についても、いつ、何を、どのように身につけさせるのか、すなわち、系統的な内容の整理が改めて求められるなか、学習指導に関する二極化（定型の運動学習と自由な運動学習）がみられることから、ダンス領域全体の充実につながるともされる現代的なリズムのダンス授業に関する実証的検討が急務であることを指摘している。</p> <p>第1章「現代的なリズムのダンス授業における定型の運動習得学習と自由な運動学習の比較(研究1)」では、定型のステップ習得を中心にしたステップ習得学習と即興的に自由に踊る自由な運動学習との比較において、ダンスに対する意識、形成的授業評価、即興的パフォーマンス評価の観点から分析検討している。その結果、両者ともに形成的授業評価について大差はなかったものの、ダンスに対する意識や即興的パフォーマンス評価については、ステップ習得学習の方が好影響をもたらしたことを明らかにしている。</p> <p>第2章「現代的なリズムのダンス授業におけるステップの難易度(研究2)」では、ヒップホップダンスを例に、仮説的に計画された授業モデル1の実践を通して、ステップ習得成果における熟練者評価、ステップ習得成果における自己評価などの観点から、ステップの難易度について実証的検討を行っている。その結果、中学生にとって比較的習得が容易な入門ステップ5種と、比較的習得が難しい挑戦ステップ4種の2群に分類することができたと同時に、生徒が未習得であるにも関わらず「習得できた」と評価する傾向のみられるステップが存在することも明らかにしている。</p> <p>第3章「現代的なリズムのダンス授業におけるステップ習得学習の有効性と課題(研究</p>			

3)」では、第2章と同様に授業モデル1の実践を通して、即興的パフォーマンス評価および運動有能感の観点から、ステップ習得学習の有効性と課題について実証的検討を行っている。その結果、即興的パフォーマンス評価についてステップ習得学習の有効性を明らかにし、また、運動有能感について、特に単元前運動有能感下位群の「身体的有能さの認知」、「統制感」、「受容感」の向上に関する有効性を明らかにしている。

第4章「ステップ習得学習を含む現代的なリズムのダンス授業における発展的な学習内容(研究4)」では、第1章、第2章、第3章の検討をふまえ、習得したステップを活用するためのダンスセッションや即興活動などを取り入れ、生徒同士がダンスを通して関わり合う「交流学习」へと発展する現代的なリズムのダンスの授業モデル2を作成し、その実践を通して、ステップ習得成果、即興的パフォーマンス評価、運動有能感、形成的授業評価、学習ノートの自由記述などの観点から、より詳細な追検討を行っている。その結果、ダンス初心者である中学生の場合、1授業時間当たり2～3個のステップを習得することが可能であり、さらに交流学习を充実させるためにも、ステップ習得学習の配当時間は2～3時間程度とすることが妥当であること、さらに、ステップ習得学習後の交流学习においても生徒のステップ習得の度合いは増すことなどを明らかにしている。また、即興的パフォーマンスの成果や運動有能感、形成的授業評価などについても、ステップ習得学習から交流学习へと発展する授業の有効性を明らかにしている。

終章では、本研究の成果を総括するとともに、今後の課題について述べている。

本論文は、以下の点において高く評価することができる。

- (1) 戦後のわが国のダンス教育が自由や即興性を重んじ、模倣を否定してきたという歴史的背景をふまえつつ、学習指導に関する二極化(定型の運動学習と自由な運動学習)がみられる現代的なリズムのダンス授業について比較検証を試み、定型の運動学習としてのステップ習得学習の有効性を実証的に明らかにした。
- (2) 中学校保健体育科の現代的なリズムのダンス授業におけるステップ習得学習に着目した授業モデルによる実践的検討により、ステップの難易度について入門ステップと挑戦ステップの2群に分類するとともに、ステップ習得学習から交流学习へと発展する新たな授業モデルによる実践的追検討により、1授業時間当たりに習得可能なステップ数や単元内の配当時間、配列順序などを具体的に提示し、その妥当性を明らかにした。また、ステップ習得成果、即興的パフォーマンス評価、運動有能感、形成的授業評価などに関して、ステップ習得学習から交流学习へと発展する授業の有効性を実証的に明らかにした。
- (3) 従来、二項対立的に捉えられていた定型の運動学習と自由な運動学習を融合するべく、現代的なリズムのダンス授業の新たな方向性を提示した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成27年7月7日